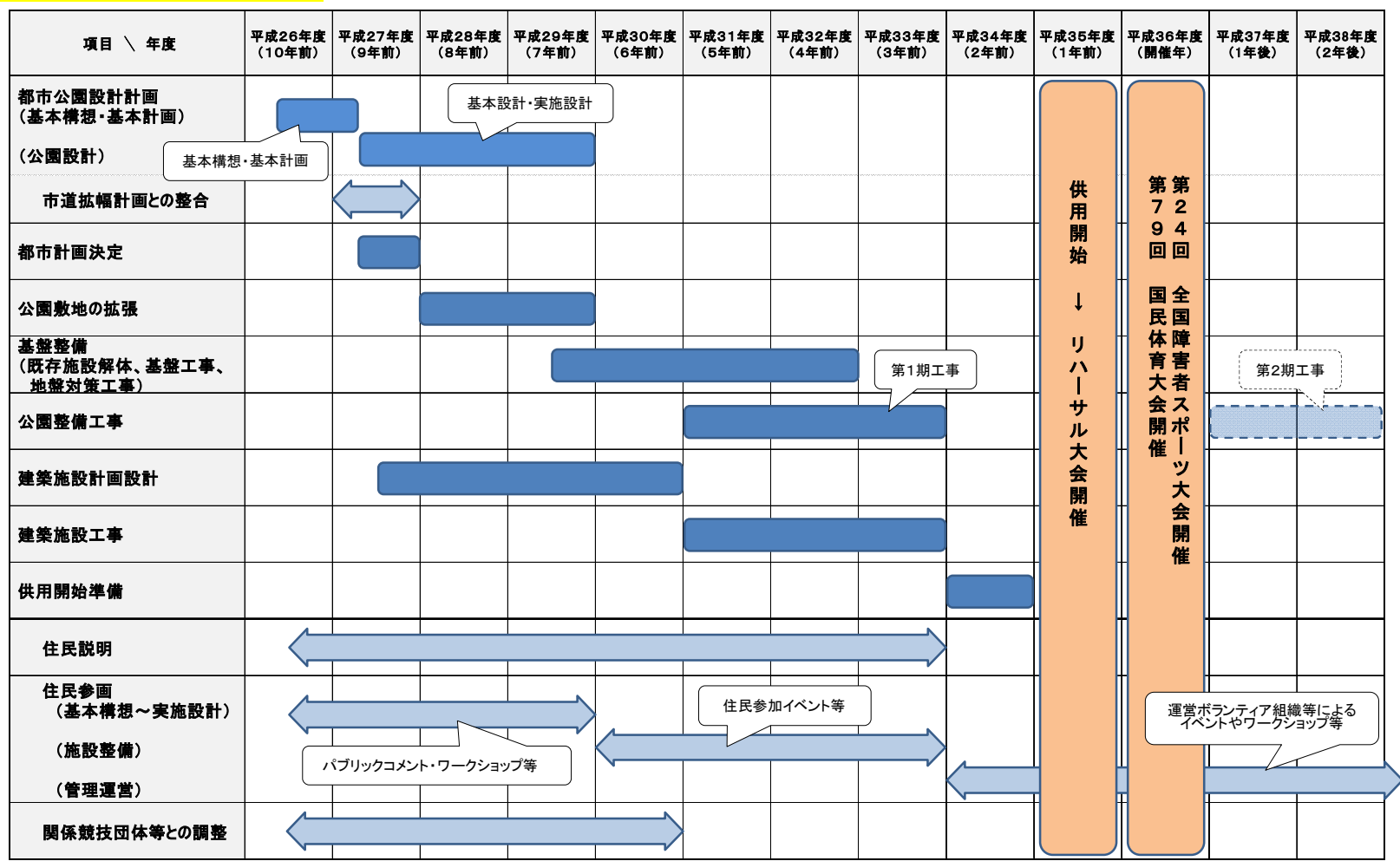


(仮称)彦根総合運動公園整備基本計画の概要(素案)

施設整備・管理運営手法等

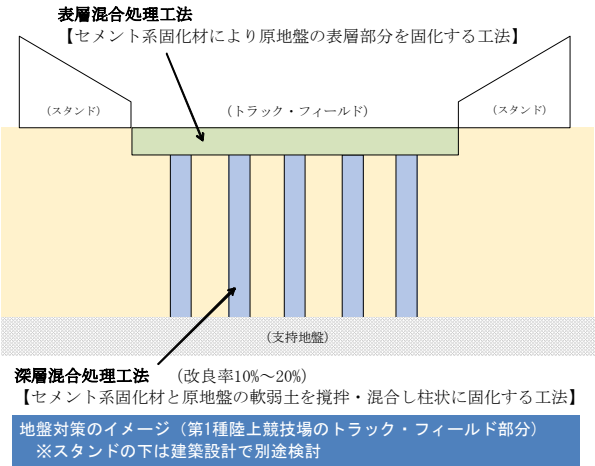
- (1) 施設整備・管理運営手法
- 民間の資金や技術力を活用できる代表的な手法である P F I 方式等については、当公園での活用は困難であり、公設による施設づくり(*)を着実に進めていくこととし、施設整備後の管理運営にあつては指定管理者制度を適用する。
- *公設による施設づくり：公共が自ら資金調達し、設計、建設、維持管理及び運営等の業務について、業務ごとに民間事業者に請負・委託契約として発注する方法
- (2) 民間活力導入
- 民間活力を最大限活用することにより、質の高い公共サービスの提供、集客力の向上を図る。例：指定管理者制度やネーミングライツ制度の導入、設置・管理許可制度等の活用(物販、飲食店舗、第1種陸上競技場内施設の活用、スポーツ教室等の充実など)
- (3) 住民参画手法
- 基本設計や実施設計をはじめ公園整備や管理運営等の各段階において、様々な形で住民等の皆様に参画いただけるよう取り組む。
- 基本構想・基本計画策定時：運動施設利用者団体を対象としたアンケート調査、全県民を対象とした意見募集
 - 基本設計・実施設計策定時：公園の利用イメージや意見等をお聞きするワークショップ(例：植栽の樹種選定など)
 - 施設整備時：公園に愛着をもっていただくことや運営にかかわっていただくことなどを目的とした様々なイベント(例：かまどベンチの製作、記念植樹イベントなど)、団体や企業、住民の皆様の寄附による設備や備品の整備の仕組みを検討
 - 管理運営時：行政と公園管理者、ボランティア組織等が連携した多様なプログラムの実施(例：体験型ワークショップ、フリーマーケット、音楽イベントなど)

公園整備スケジュール



地盤対策の概略検討

- 課題：計画地が軟弱地盤であることから、陸上競技場(第1種、第3種)のトラック・フィールド部分の地盤対策が必要である。
- 対策：深層混合処理工法と表層混合処理工法を組み合わせる工法が適している。なお、陸上競技場の建物部分は建築基礎の設計段階で別途検討。



今後の主な課題

- 景観への配慮：彦根城の世界遺産登録に向けた取り組みにも配慮しながら、景観や眺望への負荷軽減を図ることが重要であり、公園整備にあたっては、本基本計画において設定したデザイン基調に沿い、公園一帯を樹木で覆うとともに、建物の形状やデザイン、色彩などについて十分に検討し進める必要がある。
- また、計画地が風致地区内にあり、できるだけ建物の高さを抑える対応が必要であることから、第1種陸上競技場の高さを抑制する方法を検討し課題を整理した。
- 今後、より具体的に高さを抑制するための検討が必要となる一方で、スタンド屋根の高さを抑制することなどにより、必要な照度等を確保するための照明柱の設置が必要となると、逆に周囲の景観への負担が想定されることから、彦根市と協議を進めつつ総合的に検討する必要がある。
- 周辺交通環境の検討：彦根市が予定している市道拡幅事業との整合を図るとともに、計画地周辺における交通影響を見据えた動線の検討など周辺の住環境や通学等の安全確保に配慮した公園整備が必要となる。彦根市が平成27年度に作成を予定している都市交通マスタープランを踏まえ、公園整備が周辺の道路交通に与える影響を予測・評価するなどし、必要な対策についても関係機関と連携し進めていく。
- 国体開催に向けた計画的な施設整備：先催県事例により、国体開催時には最大で概ね3万人規模の来園者が想定されることから、できるだけ平坦地を多く確保するため、また、事業費の平準化を図るため、国体開催に必要な施設を優先的に整備し、国体後の完成形に向けた施設整備と区分するなど計画的な施設整備についての検討を行う必要がある。

今後の進め方

- 今後、基本設計や建築計画設計等を進めていく過程で、さらに技術的、専門的な検討を行うとともに、コスト面や法令面等の検討を踏まえ、より具体的な内容に整理していく予定。